

## あびこの文化

発行人  
村上智雅子  
我孫子市  
若松122-6  
04(7184)  
1804

あけましておめでとうございませす

会長代行 村上智雅子

新年に当たり、日頃我孫子の文化を守る会を支えて下さっている会員の皆様、そしてお力添えをいただいている関連団体並びに我孫子市と教育委員会の方々に、昨年の感謝と御礼を申し上げます。

昨年は、元日の能登沖地震に驚き、七月のパリオリンピック観戦を楽しみ、夏・秋の気象変動に憂慮し、十二月には原水爆「被団協」にノーベル賞が贈られるという悲喜交々の一年でした。

皆様には、この新年をいかに迎えになつたでしょうか。

新年早々恐縮ですが、当会にとっては大変悲しいお知らせをしなければなりません。

## ○ 美崎大洋会長のご逝去

令和六年十一月十三日朝、美崎会長が肺ガンのため入院先でお亡くなりになりました。

十一月九日には、体調不良にも拘らず、いつもの通り会報十一月号の編集と印刷を心配され、また前月の十月には「クリオの会」の最終版冊子を印刷所に収めるなど責任感の強い方です。

ガンが転移しての入院・手術と伺ってましたが、肺ガンとは知りませんでした。入院して間もなくお疲れがどつと出たのでしょうか。症状が悪化し、十三日朝手術を受けることなく息を引き取られました。(満八十歳)

ご逝去の知らせを受けて、私どもはただ、驚き、狼狽するばかりでした。

## ○ これからのこと

前回の手術と同様、今回も無事に戻って来られると信じていたものですから、あまりにも突然の訃報に言葉もありませんでした。しかし、美崎さんの御意思を尊重し、悲しみを乗り越えなければなりません。

昭和五十五年に志賀直哉邸保存活動をきっかけとして発足した当会は、初代会長 兵藤純二氏、二代目会長 三谷 和夫氏、三代目会長 藤井吉彌氏、そして四代目会長 美崎 大洋氏と会員の皆様によって築かれ、我孫子の文化を守り推進してきた。この積み重ねてきた歴史を大切に、更なる活動が続けなければなりません。とりあえず十一月二十九日に臨時役員会を開き討議し、各担当の任務を果たし、皆で力を合わせて事にあたろうという結論にいたり、副会長で一番年長の私が会長代行の任を受けました。

まず、美崎会長が渾身の力を込めて編集されて来た会報に目を通しました。兵藤会長の時の創刊号は、A5版2頁のガリ版刷りで、ささやかながら気概に溢れていました。三谷会長の折、内容拡充を計り百十六号からA4版4頁となり、様々な企画に挑戦され、藤井会長の折は同じ体裁の中でプロジェクト部会を立ち上げました。美崎会長になつてから、頁数は8頁となり前回の十一月号は20頁の躍進ぶりでした。あらためて美崎会長の広範囲に及ぶ力量に感服しました。

会報を読みながら思い起こされた美崎会長の業績は、まずは嘉納治五郎銅像建立。三谷会長と教育委員会の現文化スポーツ課長辻史郎氏との三人四脚の奮闘と企画力に合わせて会員や市民の方々の支援を頂き、コロナ禍の中完成させました。また将門ブームの一端を戸田七支役員と共に盛り上げたこと、最近美しい手賀沼を愛する市民の連合会(美手連)のデジタル教材作製でマルチな才能を発揮されたことなど、様々なことが脳裏に浮かんできました。

美崎会長の存在は余りに大きくて、とても一人や二人では埋めることはできません。ふと学生時代に読んだ石川淳の「欠陥から花を咲かせよ」という言葉を思い出しました。各自が力を合わせて持ち場を務めれば、花は咲き、事は達成できるはずですよ。

今回の新年号は、美崎会長の追悼号としました。

玉稿を寄せて下さった方が、各自の目線で美崎会長の業績や仕事振り、人となりや生き方を書いておられます。私の任務は、五月の総会までですが、皆様のお力をお借りしながら、特に会報については会員の皆様の声に耳を傾け、出来ることを出来る形で精いっぱい励んでいこうと思います。次号からは、新入会員の紹介や老若の会員の皆様の現況などを投稿して頂くコーナーも設けたいという声も、役員会で上がっております。

また、連載第十一回「世田谷の頃の原田京平ファミリ」を知る「や美手連の報告」については、次号(三月)に掲載させていただきます。会員の方の自由投稿もお待ちしております。

「引き継いでいく大切さ」と「変えていく大切さ」の両軸をバランスよく働かせて、役員一同、力を合わせてまいります。どうぞお力添えをよろしくお願い致します。



2023年6月 放談くらぶで「式場隆三郎」を語る美崎氏

美崎さんへのインタビュー

(我孫子市教育委員会 生涯学習部次長

兼文化・スポーツ課長 辻 史郎

私は我孫子市に奉職して三十年ほどになります。その間、遺跡の発掘調査を振り出しに、杉村楚人冠邸や旧井上家住宅の保存整備など、文化財の保護と活用を務めさせていただいたのですが、振り返ればいつも美崎さんと一緒に仕事をしてきたような気がします。

市役所裏の発掘調査(前原遺跡)で近隣挨拶に伺った際、たまたま呼び鈴を押した家が美崎さんのご自宅、日々進行する発掘調査現場を共に眺めながら文化財談義をした覚えがあります。また、若造にもかかわらず文化講演会の講師を務めさせていただき、我孫子の文化を守る会の皆さんの知遇を得ることができました。三谷さん・美崎さんの名コンビで主導された「嘉納治五郎先生之像」建立プロジェクトでは、苦労はしましたが、完成した師範像を美崎さんと眺めた際の達成感、言葉にできないくらい嬉しいものでした。

いつのことだったかは忘れましたが、美崎さんとの雑談の中で、出身高校がともに都立T高校で、美崎さんが先輩であったことが分かったのです。でも、進んだ大学は一部で「永遠のライバル」と言われる別の大学だったので、「美崎さん、私たちは「水原のリンゴ事件」以来一塁側と三塁側ですね!」と冗談(わかる人にはわかる話)を言ったら、「辻さん、よくそんな古いこと知っているね」と笑っておられました。

そんな美崎さんが、病を得ていらつしやるという話を風のうわさで聞いてはいたのですが、9月末の「市民文化祭オーブニング」では合唱団の一員として我孫子市民の歌を朗々と歌われていましたし、文化を守る会の会報の三谷さん追悼号をきつちりとまとめいらつしやいました。訃報を聞いた際にはよもや、と思いました。

美崎さんは私の永遠の先輩です。どうもありがとうございました。



嘉納治五郎氏の銅像をどこに建てるか思案する美崎さんと辻氏

美崎さん、高唱してください!

我孫子市史研究センター

郷土資料館推進会

東 日出夫

十一月七日(木)五団体会議を開催した。だが、我孫子の文化を守る会会長的美崎 大洋さんの姿は見えない。前日に週明けに入院するので欠席するとの連絡は受けていたが、やはりポツカリと穴の開いた感じは否めない。その日はかねてから長年取り組んできた「郷土資料センター設立運動」の市民への浸透拡大にはこの上どういう手段があるだろうか、の協議であった。以前から次は署

名活動に進むべきだとの議論があったが、賛否の議論で進まない。そこで美崎さんは反対があるなら、その下地としてもう少し運動の周知徹底をはかるために各団体の会報や機関誌に投稿し、掲載してもらおうのは如何との提案を頂いていた。この日も結論に至らなかった。

協議の報告をしたのが、土曜日であった。そして月曜日入院、その二日後に亡くなったとの連絡。信じられなかった。これから...という時に。美崎さんは「友好五団体」結成の最初からのメンバーで、各地の郷土資料館の視察にはほとんど参加し、視察後の学芸員との懇談にも前向きな質問を浴びせていた。また、星野市長や副市長への陳情にも参加し、議会の傍聴にも付き合っていた。

彼は関東では数少ない熱烈な阪神タイガースファンで、六〇年来のファンである私とは話がよく盛り上がったものだった。むしろタイガースを愛する事では私より熱烈であったかもしれない。カラオケも得意で何時か『六甲おろし』と一緒に歌いましょう、と話していた。今頃は天国で『六甲おろし』を高らかに歌っておられるだろうか。ご冥福をお祈りいたします。



追悼文

美しい手賀沼を愛する市民の連合会

会長 八鍬 雅子

美崎さんの訃報に驚いたのは、私だけではないでしょう。文化を守る会の会報誌、一番最初に見るのは美崎さんの歌でした。

奥様との素直なお歌が大好きでした。ご自分の事を、負けず嫌いとおむじ曲がりと評されていますが、そこに少年のようなと付け加えさせて頂きます。真っ直ぐに生きてこられた、美崎さんに敬意と哀悼を捧げます。

感謝!

## 美崎大洋様のご逝去を心からお悔やみ申し上げます

美しい手賀沼を愛する市民の連合会

デジタル教材制作PT・前リーダー 野口 隆也

あまりに突然の訃報に、驚くと同時にデジタル教材作りに取り組んでおられた当時のお姿が浮かんで参りました。

日頃忙しい小学校の先生と生徒のために、手賀沼流域に密着した新鮮な情報をデジタル教材としてご提供するという企画に率先して取り組んで頂きました。

その教材の名は「手賀沼に集った文化人」、まさに美崎さんの集大成の一つになるのではないかと思われる内容でした。

小学校の生徒に分かり易い形に編集し直し、興味がわくように裏話をふんだんに取り入れ、著作権の課題もご自分で交渉し、何よりもナレーションを川村学園大学の学生さんと一緒に吹き込みました。

そして秀逸は、作品中に出てくる唱歌をなんとご自分で歌われたのです。

これには録音に立ち会った全員がびつくりしました。

あの深淵とした声が忘れられません。

この作品作りにかかる並々なぬ情熱を一同感じ入った次第です。

美崎大洋様のご冥福を心からお祈り申し上げます。

合掌

## 美崎さんの死を悼む

ふるさと我孫子ガイドの会

中込 力三

突然の逝去に驚いています。もつとご指導を頂きました。寂しさが込み上げてきます。

美崎さんと深く交流させて頂いたのは、平成二十九年十一月十八日に我孫子で開催された「ベイー東葛地区交流会」の時期です。この会は、各地域が一年毎に持ち回りで開催しこの年は、我孫子市が当番幹事でした。我孫子の文化を守る会とあびこガイドクラブと当会の三団体が段取りを行いました。

同年の一月二十三日に第一回の打合せを行い、当日までの段取りを決めました。十回位の打合せを当日までに行いました。この時の、美崎さんの対応は見事であり（企画力・推進力・実行力の面）、無事に交流会を終える事が出来ました。

これを機に、美崎さんと親しく接しさせて頂きました。当会が、楚人冠の研究をしていると申し上げた所、貴重な資料を頂いた事を思い出します。

令和二年四月に建立された「嘉納治五郎銅像」は、圧倒されました。我孫子の文化を守る会が一丸となって達成した事業だと思えますが、美崎さんの強い郷土愛と統率力が加わって成しえた事と推察しております。

「嘉納治五郎が別荘を建てた事により、これをキッカケとして白樺派の面々が移り住んだのであるから銅像建立の意義はある。」とおっしゃっております。

今は、ガイドを行う時は、銅像を誇らしげに案内しています。銅像建立の効果は抜群であり、観光者に大きなインパクトを与えているようです。

何回か、「中込さん、文化を守る会の会報に載せる記事を書いてよ」と気軽に声を掛けられました。何故か、「はい」と答えて、作成して掲載させて頂きました。ニコニコ顔で依頼されると、断れないものだと思っています。人間力があるんですね。

美崎さんが、私に原稿の作成依頼をする時は、私がイベントを実施した後であり当会の事に関心を持って見て頂いているんだなど、思っております。

十月二十二日は、「放談くらぶ」で「志賀直哉ー如何に我孫子を描いたか」を演題に講演をさせて頂きました。この日は、美崎さんは、始まる前から出席され、終わるまでおられました。

そして、講演が終えた後、今後の「見える化」の実現に向けての打合せを行いました。いつもの元気さは、ありませんでしたが、発言は力強いものがありました。この時「歩くのがきつい」とは、お話されておりましたが、この日が最後の別れとなりました。本当に大事で大切な方を亡くしました。

嘉納治五郎の銅像は、臨湖閣から安美湖を見つめています。白樺派の面々は、安美湖の美を見事に描いています。

美崎さん、嘉納治五郎銅像の目線より遥かに遥かに高い遠い天国から安美湖を我孫子市を見つめて見守って下さい。

私は、五団体が現在取り組んでいる課題の実現に向けて全力投球します。

合掌

## 美崎大洋さんを偲んで

我孫子の景観を育てる会

中塚 和枝

美崎さんにはじめてお会いしたのは五団体会議の席上でした。

「五団体会議」とは七年前より、我孫子市史研究センター、我孫子の文化を守る会、あびこガイドクラブ、ふるさと我孫子ガイドの会と当会の五団体で、「我孫子に郷土資料館を」と設立推進活動を行っている友好団体です。

美崎さんのお名前は存じ上げていましたが、全く面識がなく近寄りたく遠い存在のような印象でした。

隔月発行の十数ページにも及ぶ会報誌を編集していると聞きした時は尊敬すら覚え、また読み応えがあり、特に編集後記が楽しめました。その博識の広さ深さに驚くばかりでした。時にはクスツと笑いたくなるようなことも書かれていました。

千葉県の「ちば文化資産」として我孫子では「白樺派」と文人の郷、「天神坂」が登録されています。我孫子には白樺派の文人たちが揃って何年も住んでいたことは知られていますが、現状ではその痕跡が残っていません。せつかくの「白樺派のまち」の影がうすく、残念です。

そこで当会の吉澤淳一さんが提案している「白樺派のまちの見える化」について会議で呼びかけたところ、美崎さん、中込さんに賛同頂き、「五団体会議」白樺派のまちの見える化「分科会」として五団体のうち三団体が共同で取り組むことになりました。

美崎さんはその時もその場で志賀直哉の作品の中から、どのように活用したらよいかといくつかの案が矢継ぎ早に出て、美崎さんの発想力、企画力等を頼もしく思いました。

嘉納治五郎の銅像建立の時の実行力が推測できる力強さを感じ、これからもっといろいろなことを教えていただけると期待していました。

突然のことと、残念です。「大丈夫だよ」とよくおつしやつていた言葉がまた聞こえてきそうです。

美崎さんどうぞ安らかにお休みください。ありがとうございます。

## 最後まで謙虚でストイックに生きた美崎さん

我孫子クリオの会 小林隆夫

コロナ禍で休会している間に会員が3名になり、「我孫子クリオの会」の解散を検討せざるを得なくなつたのが今年の六月です。このとき美崎さんは「この会も会報が二〇〇号を超えたね。しかし一人よがりだったかな？」とおつしやつていた。それから一ヶ月のち、『地域社会史研究』の続編ですべての会報をまとめることにしたよ。』という内容のメールをいただきました。その時わたしは海外にいましたので詳しい状況も聞かず、「私にもお手伝いさせてください。」と安易に返事をしていました。帰国後体調を崩ししばらくそのままにしていたところ、奥

様から訃報をいただき、短い期間の間に一人で会報を整理され出版と配布の手配をなされていたことを知りました。

美崎さんが心血を注いだ会報は、毎回の編集後記と後述する「湖畔吟から」とともに、会員が楽しみにしていたものでした。

美崎さんは二号（一九九八年二月二十一日）から編集を担当しています。そのときの編集後記に「現代に生きる我々は、過去と未来を橋渡しする重要な役割を担っていると思う。（中略）限られた時間の中で全てを満足できるレベルにまで整理・分析するのは難しいが、我々の後に続く人に途中の成果を引き継ぐことは可能であろう。先日も近隣の市で民俗学を研究している友人を道案内し我孫子の史跡を巡つたが、改めて我孫子の奥深さを思い知った。（M）」と書いています。

実質的に最終号となつた二一〇号（二〇二〇年二月二十日）まで、毎回数報のトリを飾っていたのが「湖畔吟」よりです。このことについて、三号の編集後記に「一年前、勤務先の近くの古本屋に杉村楚人冠の『湖畔吟』（復刻版）を見つけた。以来手に入れたいと思つたが、いざ買うとなると周りの本に比べると少し高いような気がする。それでも本屋に行くたびに気になり、売れていないことを確認して帰ること幾度、楚人冠の名前は我孫子の住人なら知つているが、それ以外はあまり興味を持つ人がいなかったと見え、一年経つたついで先日、無事我が家にもめでたく嫁入りとなつた。毎晩、居間のソファアに座りチビリチビリ読んでいます。（M）」と記しています。

二〇〇〇年十月十七日に「我孫子クリオの会」の精神的支柱（三十三号）であつた齋藤先生の亡き後は、会長としてではなく代表として会を引き継ぎ、そのあり方や運営に工夫をなされてきました。そして歴史・文学・芸術その他の文化全般について自由に談話できる会、各種の見学会、時には鈴木屋さんの弁当を囲み、ある時は場所を変えての懇親会など、サロンの雰囲気の中につくり上げられました。

紙面の都合上紹介できなかった会報の内容については、我孫子市民図書館にある『地域社会史研究』（我孫子ク

リオの会）をお読みいただければ、一会員としても嬉しいかぎりです。それにしても、世間を驚かし自己顕示と扇動を生きがいとするタイプの人物が選挙でネットを使い跋扈する時代を、美崎さんほどのように編集後記に書くの見えることの出来ないのが残念でならない。

## 大先輩を偲んで

我孫子三田会 畠 均



塾の大先輩の美崎大洋さんは、自然豊かな手賀沼を擁する我孫子をこよなく愛し、これまでいろいろなボランティア活動に、ご活躍されてきました。

「我孫子の文化を守る会」の会長として、柔道家、嘉納治五郎の銅像建立に当たっては、毎日のように資金集めに奔走しているお姿は、今でも小生の脳裏に刻まれております。

我孫子の歴史や魅力を多くの人々に知っていただきたくしたのでしよう。

また、音楽にも造詣が深く、混声合唱団「響」の活動にもご参加され、一度の地方の講演合宿を楽しみにしておりました。

私ども我孫子三田会は、今年で六十六回目の総会・懇親会を開催いたしました。先輩は、長年に渡り幹事長として、会の立案計画から当日の議事進行、近隣三田会との連携など多岐にわたつてご活躍されました。まさに会の重鎮でした。

先輩はゴルフも楽しまれ、年一回の我孫子ゴルフ倶楽部で開催される三田会のコンペにも積極的に参加されておりました。ややオーバーサイズング、スライス系の球筋でスクアマイクに苦労している姿は今でも小生の記憶に残っております。

急な旅たちの知らせを聞き先輩との別れに寂しさが消えることはありません。

安らかなご永眠をお祈りいたします。

## 美崎大洋会長のご逝去を悼む

佐々木 侑（会員）

令和六年十一月十三日の夕方十七時頃、美崎会長の携帯電話からのベルが鳴りました。入院中にも関わらず当会のご心配事でも思い出して連絡をくれたのか、「美崎さんらしいなあ」と思いつつ耳を充てたら奥様の声が聞き取れました。不自然であるとは思いますが「いかげんしましたか」と聞いかけてみると、喉に籠もったお声で「今朝方美崎が亡くなりました」と。「亡くなりました……」が何のことなのか直ぐには理解できず、「あのオ……、何でしょうか？？」と聞き直したのか、よくは覚えておりません。突然の訃報連絡が美崎さんの奥様から美崎さんの携帯電話であつたのです。美崎会長とは十一月の定例役員会（一〇日曜実施、美崎会長体調不具合で欠席、十一日の治療入院準備中）の終了後、簡単な会議内容の報告と十一月号会報その他書類などを自宅にお届けした際に玄関先で短い会話をしております。その時はいつも通りで立ち話もにこやかに交わして、翌日入院しその翌々日にはお亡くなりになるお方とは、どうしても見受けられませんでした。

葬儀は家族葬、通夜式は十五日、当会からは代表で3名通夜式のみ参列させて頂きました。宗派は日蓮宗・戒名は妙法善秀日大信士。享年八十歳。家族葬でありながらも美崎会長に相応しく会場は厳かで立派なお別れ式でした。

お柩の中で眠っているようなご尊顔は、お声をかけると「おう、来てくれたのか」と起き上がって冗談でもおっしゃりそうなお姿でした。しかしながら私といたしましては、手を合わせながら「俺も」まで、身を引かせて貰いますよ、また美崎さんに以前からお伝えしていた「美崎さんが会長を引くときには私も同時に会から身を引きます」との約束を実行に移すときが来たなと感じ入りました。突然のご逝去でありますので、頑張れる

だけは頑張り、身辺を整理した上で煙のように消えたいと思つている次第です。

美崎さんとの思い出は多々あります。その一は、何はさておき「放談くらぶ」講演の担当者として、美崎会長にご迷惑をお掛けしながらご指導頂きました。多様な人脈をご紹介頂き、時流に合った話題や我孫子に関わる歴史・文学・芸術に秀でた講師をご紹介頂きました。また講師の選定が困難な場合などには急遽、美崎会長自ら講演をなさって頂きました。私の役割は会場場所の手配、ポスター作り、市内各所へその掲示と配布、当日の司会進行役だけで役立たず者でした。

その二は、プロジェクトの「巨木・銘木を巡る会」の実施とその実施報告文の取り纏めです。私が「巨木のあるところには歴史がある」「鎮守の森 自然の森林の歴史・文化・民俗・エコロジーなどを考える」「同好者の会のグループを組成し、我孫子市内の巨木・銘木調査を三年かけて二回実施しました。その後には近隣の巨木の調査を行い、都合のついた時には美崎会長も幾度か出席頂きました。コロナの時期には休会にしましたが本年からまた再開し、東京芸大構内や東大三四郎池周辺の巨木調査を行いました。美崎さんからも関連する巨木のある地域の歴史・文化につきご指導頂いておりました。

その三は、「短歌の会」です。当初は三谷前会長が講師をなされていたのですが、ご高齢となり残念でしたがご逝去され、美崎会長が司会をお勤め下さいました。もともと「百人一首を楽しむ会」の講師を美崎さんがなされていたので和歌に詳しく深い探究心からか、ご自身の短歌も味のあるわかりやすい歌風で作歌なされて、ご指導して頂きました。美崎会長は各々本人の自由な発想・歌題・調べを尊重して盛り立て、実におおらかに楽しい短歌会に育てて下さいました。私も駄作としか言えない短歌ですが、毎回三首以上提出し皆様と共に短歌会を楽しませて頂いておりました。

まだまだ思ひは尽きませんが、忘れてならないのが記念誌「我孫子の文化40年の歩み」の制作事業と「嘉納治

五郎銅像」の建立事業です。さらに年六回奇数月発行の会報「あびこの文化」です。まだまだその他にも、我孫子ゴルフ倶楽部の会報誌に掲載された「あびこ今昔ものがたり」全五〇回（五年間）、杉村楚人冠関連の多くの論文集、百人一首の解説（百人一首を楽しむ会）の継続編、最近では「デジタル教材プロジェクト」「手賀沼に集った文化人」のビデオ制作等々数えきれません。約四十年前には、コンピュータ関連（現在ではIT産業）の会社でトップを務めご活躍されたと聞き及んでおりますが、これほどにも多彩な知力能力をどこで養ったのか想像できません。当会の全ての事業でまさに先頭に立ち、時には自身が単独でもやり遂げる強靱で旺盛な能力胆力、まさに「我孫子の南方熊楠ではないのか？」とその高度な能力に感心させられ通しました。

美崎さんはお酒が、特に日本酒が大好きでした。私も日本酒が大好きです。しかも同じく熱燗が大好きでした。よく我孫子の町中で会議の後などに三々四人で、時には老人二人で遅くまでちびちび呑み話し込みました。兄貴のように優しくそばに居るだけでそれなりに、ご指導を頂きました。

美崎さんはずーっと長く合唱団に加入して歌うことを楽しんでいました。そこではクラシックだったでしょうが、私とはほろ酔い加減のままカラオケ店で歌いましたね。そこでの演歌も本格的の歌唱でブレずに、楽しくもしんみりと聞かされました。

何気なくスマホに残した顔写真

あなたも去ったかわれもすぐ逝く  
取り柄なくほどほどにゆく我が代にも

あの世にも咲け白曼珠沙華

本当に大切な人を亡くしました。自分自身を見失つたようです。残念です。



### 美崎会長の思い出

稲葉 義行 (会員)

美崎会長の訃報に接し大きな驚きとともに、喪失感に襲われました。

会長とは東京生まれ、東京育ちのためか、子供の頃、戸山が原の練兵場跡地で遊んだ話等で大変馬が合ったように思います。会を離れた話では、麻雀大会で優勝した事や、役満を振り込んで大負けした話等で、盛り上がったことなどが思い出されます。

また、平成三十年からの嘉納治五郎銅像建立事業では寄付金の受け入れをどの様にするか等、会計上の取り扱いは方法等打ち合わせを行い、受け入れ金融機関の選択では、地元にある金融機関千葉銀行・千葉銀行・千葉興業銀行(三行)とゆうちよ銀行に決定し、預金口座開設には必要書類の作成と会長印が必要のため、同行して頂いて、預金開設にご協力頂くことができました。その後も、講演会・展示会等の開催及び我孫子駅前での募金活動等を行うことに募金の集まり具合を大変気にかけておられました。

令和元年二月には、銅像鑄造の必要経費の目途がつかない旨報告した時には、会長の表情が「ホット」したように見受けられました。銅像お披露目の当日は「晴れ晴れとした」表情で、今日まで相当のプレッシャーがあったのだろうと推察しました。

今年の九月に私の入院先の我孫子名戸ヶ谷病院の待合室でお目にかかった時は、歩くのが大変辛そうなお姿をお見かけしたのですが、十月の放談クラブでは回復した様子でしたので安心しておりましたが、十一月十三日にご逝去の報を受けたときは、あまりにも急なこと、何と言つても良いか頭の中が真っ白になってしまいました。八年余の短い間ではありましたが、組織の在り方、人との接し方等貴重な勉強をさせて頂きました。有難うございました。

美崎様のご冥福を心からお祈り申し上げます。

### 美崎大洋さんのご逝去を悼む

牧田 宏恭 (会員)

この度の美崎さんの悲報に、先ずは慎んでお悔やみを申し上げます。

私的美崎さんとの交わりは、美崎さんが「我孫子の文化を守る会」会長に就任されたところからが主であると記憶している。数々の想い出があるが、その中から印象深い事柄三つを紹介したい。

先ず一つ目に「クラシック音楽を愉しむ」ことが挙げられる。「クラシック曲」について何度かお話を交わす機会があった。私も、趣味として六十有余年になる「クラシック音楽ファン」であり、今も続いている。

ある時、美崎さんから「我が家」にレコードを聴きに来ないかとお誘いをいただき、会員の仲間三人(女性会員含む)で何度か「美崎宅」にお邪魔させていただいたことがあった。部屋の奥から何枚もの「レコード」を抱えて来られ、聴き始めた。美崎さんは研究熱心な方で、曲の「作曲者に纏わる話や、歴史などを「レジュメ」として用意され、「レクチャー」しながらの鑑賞だった。時に、レコードプレーヤーの動作不安定発生などアクシデントもあったと記憶するが、美崎さん持ち前の豊富な話題で盛り上がった。

余談だが、私は敗戦直後の四歳のころ、自宅にて「父の所蔵品：SPレコード」を聴くため、自分で電気蓄音機のターンテーブルに「鉄のレコード針」の付いたピックアップを盤面に下ろし「ベートーヴェンのシンフォニー」を毎日のように聴いていたと両親から教えられた。それが音楽との出会いだったようだ。

今改めて、美崎さんと一緒にもっと音楽を愉しむ時が持っていたら良かったのにとつくづく思う。

次二つ目の事柄、これは「我孫子の文化を守る会」として、「美しい手賀沼を愛する市民の連合会(略称：美手連)」の活動に美崎さん共々積極的に参加したことを挙げたい。美崎さんが理事として、私が運営委員として「手賀沼流域の環境改善」を目的に諸行事に参画した。

その連合会の活動の一つに、「デジタル教材プロジェクト」があった。これは、我孫子、柏などの東葛地域の小学校高学年向けに「デジタル機器を介して手賀沼流域の「文化人」「歴史」「自然」「生物」を学ぶ教材」を作成するもので、特に美崎さんは、「手賀沼に集った文化人」のタイトルで大正時代に著名文化人が手賀沼湖畔に集うきっかけを作った「嘉納治五郎」の紹介に始まり、「志賀直哉」「武者小路実篤」「柳宗悦」などを、映像とナレーションで親しみやすく解りやすい内容で纏め上げる力作を、ご自分で完成させた。「ナレーション」はご自身の声で吹き込むなど熱意を込められたことは記憶に新しい。

美しい手賀沼を愛する市民の連合会・デジタル教材づくり事業作品 (表紙部分) (我孫子の文化を守る会 制作)



三つ目は、通算二〇〇号を超える「我孫子の文化を守る会」の会報「あびこの文化」の編集から発行までの、大変な労力と神経を費やす作業を、直接のワークとして取り組まれてこられた事だ。その「編集後記」には、美崎さんが毎号「身近な世の中の出来事」に関連して「辛口コラム的意見など」を述べるコーナーとなっていた。この文面には頷かされること多い毎号であった。

「美崎大洋さん。ありがとうございました。ごゆっくりお休みください」

## 偉大なる美崎さんの思い出の一端

吉澤 淳一 (公員)

私は大分前に我孫子の文化を守る会の役員を退き一会員となつてからは、周年記念誌に寄稿するぐらいであまり会のお役にはたつていなかったなあと、美崎さんの訃報に接してしみじみと感じたものでした。夏ごろ、たまたま東邦病院の待合室で具合悪そうにしていた彼に会つて、少々心配していましたが、秋になって五団体会議「白樺派のまちの見える化」分科会の会合に出てこられて、愁眉を開くと同時に心強く思つたものでした。しかしそれも束の間、運命のいたずらとでもいうのでしょうか、帰らぬ人に。

その数日前に届いた会報「あびこの文化」二〇二号は、二十ページの大部でした。驚きました。もともと当会の会報はページ数が多く、内容も多岐にわたり、その編集は並大抵なことではないと思つていました。それも、平成二十八年の百五十五号まで年四回の発行を、翌年は五回に、平成三十年から年六回に増やしてからも八ページ、十二ページ、十六ページと増やしていったのです。その内容はますます充実してきました。会長が美崎さんになりやがて編集も美崎さんが自ら手掛けてからの事なのでした。その裏には多くの方々の立派な寄稿と協力があつてのことですが、会の運営の傍ら一か月に一回、そのエネルギーで緻密な編集には敬服していました。我孫子の文化の発信基地としての役割を遺憾なく果たしてきたのです。

私も我孫子の景観を育てる会で、数年にわたり「景観あびこ」という会報を編集してまいりましたが、特集号以外は大体四〜八ページぐらいで、それでも苦労していました。集稿・外部への寄稿依頼・読み・カット制作・割付・校正等々、私の場合は組織でうごいていましたが、ある時美崎さんに伺うと、「大体一人でやっていますよ、大したことではないよ」と事もなげに言うのでした。美崎さんらしいなと思いつつ、会の活動の秘めたる情熱を感じたものでした。

偉大なる美崎さんの思い出の一端です。

## 皆様の「冥福を祈ります

越岡 禮子 (公員)

「我孫子の文化を守る会」は、今年、創立四十五周年を迎えます。昭和五十八年に入会した私は人生の半分以上を会員として多くの貴重な体験や会員同士の交流など有意義な人生を送らせていただき深く感謝しております。

志賀直哉邸保存運動に参加した人たちが立ち上げた当会は、我孫子の歴史、伝統、自然環境などに深く関心を持つ愛郷心に満ちた人達の集まりです。

初代兵藤会長をはじめ、二代三谷会長、三代藤井会長、そして四代美崎会長、どなたも並々ならぬ想いでこの「我孫子の文化を守る会」を盛り立ててきたのです。

しかし、今年は何という悲しい年だったのでしよう。特別な年でした。コロナの影響を受け、会の運営が次第に縮小すると共に会員の高齢に対応するのが遅かったのでしょうか。百数十名の会員は半分になり、役員の方も平均八十歳前後になつてしまいました。

この秋になつて齊藤清一幹事の死亡が分かり、三谷和夫二代会長、戸田七支幹事が続いて亡くなられました。さらに十一月に入り、数年に渡り闘病生活を送っていた美崎大洋現会長が亡くなりました。一人一人の面影が浮かびます。

いつも物静かな齊藤さんは、倒れられる直前まで全国を一人旅で楽しんでいました。当会では、手賀沼関係を担当して下さいました。

戸田さんは平将門と郷土の繋がりを調査し、新しい説を唱え、仲間内から「日本のハイブリッド・シニョーマン」と呼ばれ人気がありました。三谷前会長は、会ばかりでなく、東葛の各地で郷土史を語り、執筆もしていました。新アララギの歌人としても知られていました。

四代会長美崎氏は持病を持ちながらも広く交流を持ち、会報作成を担当して下さいました。毎回の会報は大変重厚で立派な会報でした。

今、思えば最後の十一月号(二〇二二号)会報発行で体力をかなり消耗されたのではと誠に残念でなりません。三谷氏と共に嘉納治五郎像建立に大変尽力されたことは後世まで伝わることでしよう。皆様のご冥福を祈ります。

## 美崎大洋さんを偲ぶ

佐藤やす子 (公員)

突然の悲報びつくりしました。亡くなる二日前、会報の事でお電話した時、声にちよつと力が無かったですが、明るく感じてお話になり「元気なんです」と思い電話を切り、布佐での事が蘇りました。

布佐での将門講演会の折、天王台から私を車に乗せて下さり、発車した途端に美崎さんが「僕、膀胱癌なんだよ」と言われ、「嘘でしょう。冗談ですよ」と聞き返したことが妙に心に残っています。

会報の作成、役員会の資料、その他部外での活躍、「響」でのコーラス等本当に大変でしたね。お疲れ様でした。

心より「冥福をお祈り致します。



2022年5月 史跡文学散歩「市川市文学ミュージアムにて

## 心から「冥福をお祈りします」

納見 美恵子 (会員)

美崎さんとの出会いは、我孫子の文化を守る会の何かの講演会に出席した折に勧められるままに入会し、その短歌の会に出席した時でした。

短歌の会のメンバーはほとんど文化を守る会の幹部の方々で、何も知らずにポツと入った私は最初非常に戸惑いました。しかし会の雰囲気は和やかで、いつの間にか楽しく参加させて頂いておりました。

最初の会の時、美崎さんは私の舌足らずの話の内容を汲み取って、補足しながら上手に話を進めて下さいました。その優しいお話し振りをとてもありがたく思ったことを覚えています。

会のリーダーになられた後も、人の意見を否定したり、気持ちを傷つける様なお話し振りは全くなく、私も長年の会員の様な気安さで隔月の集まりが楽しみなっておりました。

私自身の年齢もあつて、友人・知人の訃報に接するところがこのところ多くなつたのですが、美崎さんの死はそんな中で一番のショックでした。

まだまだお若いのに……。いい方だったのに……。という思いで、早すぎる死は本当に残念でなりません。でも、あの世でもしお目にかかったら、どうぞまた一緒にさせて下さい。

短い期間でしたが、今まで本当にありがとうございました。心から「冥福をお祈りいたします」。

## 尊敬する美崎大洋さんを偲ぶ

芦崎 敬己 (会員)

十一月五日の夕方に美崎さんから電話を貰いました。「会報紙」及びこの文化十一月号の編集をしていて、体調が思わしくないから私の家に来て編集作業をして貰いたいがどうだろうか」とのことでした。

私の出した原稿「巨木・銘木をめぐる会」の参加報告が長文で、写真も多く、てつきり迷惑を掛けていると思いい、「ご自宅へですか」と一応聞き直して承諾し、七日に伺いました。

七日は、一時半にお宅に上がると、和室の炬燵のテーブルにパソコンを広げて、美崎さんは座椅子で休んでおられた。「心臓の調子が悪いんだ」と仰る。私がパソコンを見ると、一つの原稿を除いて全て揃っている。

十一月号の頁建は、二十頁。初めてのボリューム。A3用紙一枚の裏表に四頁なので、刷版だけでも十版ある。これは、編集だけでなく、その後繋がる印刷や折り・帳合、封入作業、配達・郵送作業の全てに関わる膨大な作業量が押し掛かって来ることを予想した。「大変だと身震いしました」。

美崎さんの体調が思わしくないのに、この様子では先に精神的にも疲れ果ててしまうだろうと、本当に心配しました。

この日の編集の作業は、大方の割付けは終わっており、私の書いた原稿に写真を嵌め込むレイアウトが主な作業でした。と言っても、原稿量に従い、頁毎に行間の調整や写真説明文(キャプション)の配置調整など見た目を綺麗にする必要がありました。

二時間半程で作業は終了すると、「明日も自宅に来て、編集を仕上げて欲しい」と仰る。作業はもう少しで終わるので、「明日は三時に伺います」と言つてその日は帰りました。

翌日、十一月八日(金)も自宅から美崎さんの家まで、市役所第二駐車場の間を歩いて十五分程で着き、最終的な編集を行った。

最後の原稿は、美崎さんの要請を受け字数制限に協力し、修正した美手連の活動報告で、文字数を調整した再提出によりぴたりと全体のレイアウトが完成した。

しかし、写真のキャプションやページ番号フンブルの訂正・修正を行うと、ページ全体が崩れて、何度も何度も修正を要した。

時々美崎さんに目を遣ると、少し苦しそうな面持ちで、苦しさに耐えていらつしやる。

傍に居る奥様も心配げに声を掛けつつも、会員宛の封筒の印刷状況を確認している。

この時、会員宛の封筒印刷は未だ出来ていなかった。八〇通もの封筒印刷は結構手間が掛かる。私は、封筒に会員名の直接印刷ではなく、名簿があれば宛名シールに印刷して封筒に貼り付けることを提案しました。

漸く最終の確認は終わり、羊羹を「馳走になりました。美崎さんは、全体を振り返り、会報紙「及びこの文化」の紙面書式について息も切れ切れで話してくれました。

本文、マイクロソフトのワードで縦書き、三段組、文字フォントはMSP明朝体、11ポイント、行間隔は固定値14ポイント間隔の改行を原則にして、頁内に追い込みの場合は行間隔を詰めたり、空白行を無くす場合には行間を広げたりして、調整しているとのことだった。

私は、忘れない様に急いでその基本フォーマットをスマホに記録した。何だか師匠からの直伝を受けているような感じでした。

お茶を啜りながら、「宛名シールをこれから自宅で用意します。明日九日に他の役員と集まって印刷をさせていただきますので、安心して下さい。十日に入院したら、早く出て来て下さいね」と話して、その日は帰った。

翌九日は十時に、けやきプラザの市民活動ステーションの印刷スペースに役員と会員の五人が集まり、二五〇部の会報誌印刷に取り組んだ。作業は順調に運び、印刷、帳合、折り、封入が予定通り十二時に終了した。

初めての二十頁建て二時間で終了するか気掛りでしたが、皆に安ど感が湧き、近々のカレーショップでランチを摂りました。

十一月十三日、副会長の佐々木さんより、「今朝、美崎さんが亡くなったとの連絡が奥様からあった」と知らせるラインが夕刻入った。



2022年2月将門シンポジウム



2023年10月湖北の将門神社

六人になった役員が相互に連絡を取り合ったが、誰もが気が動転し信じられない気持ちだった。翌日直ぐに臨時役員会を開催し、喫緊の課題に当りました。

その後、十六日の通夜等のご葬儀を経て、今後の運営の役員態勢、当面のイベント運営に関して二度の臨時役員会を開催しました。

通夜参列の時に、今回の会報誌の印刷作業を通して、会報誌のフォーマットについて私に話をしてくれたことを思い出しました。

もしかしたら美崎さんは退院できないことをかなりの覚悟の上で、私に伝えたかったのかと思いました。

また、今回の会報誌二〇二〇号は、『楚人冠と柳田国男』(12P)、プロジェクト報告『百人一首を楽しむ会』(15P)と庄巻のポリニームの研究論文を執筆しています。

今思うと、ご自身はどうしても元気な内に書き表したかった、発表しておきたかったという気持ちが強かったのかも知れないと感じています。

こうしたところに美崎さんの市井の研究者としての気概を強く感じました。

そして杉村楚人冠の研究者でもある美崎さんの我孫子に関わる研究のもう一つの集大成として『あびこ今昔ものがたり』がある。これは我孫子ゴルフ倶楽部の会報誌に五十回も連載された著作で、我孫子の歴史文化を綴った美崎さんの研究成果である。こんにち我孫子市民や社会一般にこの内容を広める意義は大変深いものがあると思います。

私は、『あびこ今昔ものがたり』が、早く日の目を見ることを心から願っています。

美崎大洋さんを尊敬する者の一人として。

## 令和六年度(第二二回)

### 手賀沼統一クリーンデイに参加して

牧田 宏恭(会員)

今年度の『手賀沼統一クリーンデイ』：みんなで楽しくふるさと手賀沼をきれいに』は、例年同様に、我孫子地区(令和六年十一月一日(日))の他、「白井地区」：十一月二十四日、「柏地区」：印西地区：十二月一日の四地区で美しい手賀沼を愛する市民の連合会が主催、手賀沼流域の「柏市」、「我孫子市」、「白井市」、「印西市」の各市と「手賀沼水環境保全協議会」千葉県が「協力して、一斉に行われ、「清掃活動を通して、ゴミのない綺麗な環境にすることの素晴らしさ」を肌で感じる催しとなった。

「美手連」は「我孫子地区」の行事を我孫子市主催の『ふれあい清掃』の一環と位置付け「統一クリーンデイ」と銘打ち行なった。以下、表記数字データは「美手連事務局」の資料に依る。

四地区合計の参加者は二八五名(前年比87・1%)、内我孫子地区は二九〇名(同90・6%)と前年を下回ったが、柏地区は同100%と単独達成。我孫子地区の「美手連関係」参加者は六九名であった。我孫子地区参加者は、その他ボーイスカウト・ガールスカウトの一〇〇名、一般が一〇二名などだった。

「我孫子地区参加者」は午前八時三〇分までに「我孫子会場」：手賀沼公園広場に集合。「我孫子の文化を守る会」は有志五名(役員)が「美手連」の一員として「手賀沼公園地先」：ボート小屋付近の「外来植物駆除」作業に参加した。

「星野 我孫子市長の挨拶」、「我孫子市手賀沼課職員の行事次第説明」を受けた後、上記の作業担当場所に向った。「美手連」は手賀沼公園湖上園前と手賀沼公園北岸壁面の「特定外来植物(ナガエツルノゲイトウなど)駆除」にターゲットを絞り「クリーン活動に参加」。「ボーイスカウト・ガールスカウト」は「手賀沼公園ふれあい護岸」の「外来植物駆除」に携わった。

2024年12月 手賀沼クリーンデイ 我孫子開場での作業



午前九時〜同一一時の約二時間、「長手ゴム手袋」を装着、泥水まみれの「外来植物」を纏め、「袋詰め作業」に汗まみれで夢中に取り組み、「持病」の腰痛・膝痛も忘れる充実の一時だった。

我孫子地区は「ゴミ」など「収集量合計約2トン、内「外来植物」は1・2トン(前年比不明)、「ゴミ」は0・8トン：前年比105・6%であった。「ゴミ」は、「手賀沼公園」：根戸新田：ふれあい道路南側沿い」と「手賀沼公園」：手賀沼親水広場「迄の清掃作業によるもので、青年会議所と一般参加者が担当。「ゴミ」の増加は「根戸新田」までの『ふれあい道路南側』の作業が復活したことも影響していると思われる。

「外来植物」1・2トンの内訳は「我孫子地区」：0・44トン「印西地区(亀成川)」：0・76トンであったが、我孫子地区だけで「ゴミ袋」：三七袋になった。

作業は、「外来植物まとめと袋詰め作業」を行った場所を、「残物の植物片や汚れ」が残らないよう、作業参加者全員で徹底した清掃作業も怠りなく行い無事終了した。

私は、「外来植物」：特にナガエツルノゲイトウやオオバナミズキンバイなどの特定外来植物は「自然環境破壊」する「悪者」であり、常に地道に「駆除作業」を継続することが、やがて「全滅」への道しるべになると信じている。

私は、「手賀沼」に子供連れで来ている多くの市民が、我々の「環境改善作業」を見て、「市民みんなが、自然の大切さを学習し、環境改善のための諸活動に興味と認識を持ち、日常の環境改善行動に積極参加すること」を切に期待する次第だ。

演題

あびこだより1115号

「白樺派のまちの見える化」に向けて

ちば文化資産「白樺派と文人たちの郷」への提案

前我孫子の景観を育てる会 会長 吉澤 淳一

“我孫子に郷土資料センターを”を目的にした五団体会議では、内三団体(我孫子の文化を守る会、我孫子の景観を育てる会、ふるさと我孫子ガイドの会)の分科会で「白樺派のまちの見える化」の構想を、ちば文化資産「白樺派と文人たちの郷」のさらなる推進の一つとして組み入れるべく、市に提案しています。

千葉県が設定しているちば文化資産の一つに、「白樺派と文人たちの郷」があります。その「文人たちの郷」を目に見える形で具現化しようとするものです。それが「白樺派のまちの見える化」の活動です。それは白樺派の文人たちの創作活動や作品の一端を、今の我孫子のまちなかに視覚的に蘇らせようという試みです。そこから文人たちとその作品への理解促進とその先に観光資源化を見えています。まち歩きガイドの見える化ツールとしても活用できます。

放談くらぶ



まちかどのイラスト[イメージ]

我孫子駅から志賀直哉、武者小路実篤、柳宗悦・兼子、などの居住跡地への道すがらや作中に出てくる場所などに、彼らの作品(抜粋)やエピソードなどを掲示しようとするものです(イラスト)。現在の我孫子のまちなみに、白樺派の名残りを見出すのは困難ですが、文人のまちらしく「文」でそれを表します。

志賀直哉の作品は全国的に人気が高く、その中に旧我孫子町の彼方此方が良く登場するので、志賀直哉から始めて徐々に他の文人たちへ広げていくことも考えられます。代表作「和解」では、我孫子駅頭が象徴的な役割を担っており、そこから入っていくのも良いでしょう。今私たちは、まちを歩いていると、自然に「白樺派」が理解できて「文人たちの郷」が実感できる、そんな仕掛け・演出を数年かけて実現していこうという活動を始めています。

試みに、志賀直哉の「城の崎にて」の城崎、文豪が多く訪れた塩原、鬼平のまち・墨田区本所界限を歩いてみましたので、参考例も提示したいと思っています。

第四十二回史跡文学散歩

「我孫子の白山・緑地区を歩く」

参加者 吉田 哲

R6(2024)/11 /23(土) 実施

一九七六年十二月に我孫子市新木に越して来て以来、我孫子市の関して「北の鎌倉」という言葉のみの理解で、直接その豊饒な歴史に接することはありませんでした。今回、機会の散歩に参加させていただき、直接足を運んで「風土」を体感することの大切さを痛感しました。越岡様の名ガイドは、内容豊富で十分に吸収できたとは言えませんが、私なりのまとめってみました。

一、大正期以前の我孫子

一 八坂神社

全国に十六しか存在しない勅祭社である香取神宮、鹿島神宮への大切な成田街道の入り口であった我孫子宿、その入り口に当たる八坂神社には、我孫子宿一の宮としての庚申塔、昭和天皇所縁の石碑等が存在している。七月には、市内最大の例祭が開催され、駅前(宿前)に相応しい由緒がある社である。

一 興陽寺



八坂神社でのガイド

大光寺、延寿院と併せて我孫子宿の三寺院の一つの白山地区の興陽寺。我孫子宿の中心近くにあった興陽寺が、ひときわ、ありし日のたずまいを残している様子だった。境内には釈尊と弟子の像、二宮金次郎の像、我孫子宿本陣墓所などがある。

特に中央に石造りの群像―釈尊像と弟子の像は、理解に達している者だけが微笑むという時代を越えた寓話が印象に残った。

白樺派をはじめとした文化人ゆかりの墓所にも案内される。そこで「大正」の空気を感ぜられる説明を聞きながら、手賀沼を臨む風光を愛でた文化人の息吹を感じることができた。

二、大正期(白樺以降の我孫子)

一 嘉納治五郎後楽耕地

白山地区の尾根道の西側一帯の二万坪を嘉納が学校用地として買入れた経緯を話された。

天神山緑地の嘉納治五郎像を囲む参加者と講師



武者小路の「新しき村」からも感じられる様に所謂「学制」の中にとどまる学校ではなく、士族の精神をひきずった明治という時代に対しての新しい時代の自由と息吹を発露する学校だったのだろうと推測される。

嘉納治五郎翁、すなわち明治の漢(オトコ)は、躰は小さくとも髪は立派、それ以上に志の雄輝な一と、眩しい程であると感した。治五郎は、一九四〇年東京オリンピックに尽力して成功したが、日中戦争が勃発して幻のオリンピックになったとのこと。しかし、その前に何と「アメリカ大陸横断駅伝」まで立ち上げたというから驚く。私など、新年の箱根駅伝を観るごとに新年の志と息吹を吹き込まれている。

それにしても、当会の方々が基金を募って作られたという嘉納治五郎像は、何と立派なのであろう。少し青銅の色が出はじめた像は、風を受けて堂々と立っていた。

―大衆キネマプロダクション跡地―

白山の細分化された袋小路の住宅地でしかないところ、往年の映画人の夢が詰まっていたとは、思いがけないことであつた。またアイコンの女優であつた麗人岡田嘉子の数奇な生涯にも思いを馳せることができた。

現在の役員体制について

- 会長代行：村上 智雅子
- 副会長：佐々木 侑
- 副会長兼会計：稲葉 義行
- 幹事：牧田 宏恭
- 幹事・会計：佐藤 やす子
- 監査：飯高 美和子
- 監査：芦崎 敬己
- 顧問：越岡 禮子



会長代行 村上智雅子

―アビソン・シユガーガーデン―  
この辺りに金子兜太が絶賛した我孫子の俳人酒巻光子旧宅跡地があつたとのこと。

―嘉納治五郎旧宅―  
一九一一年に嘉納は別荘を構え、西隣地(三樹荘)に柳宗悦を呼び寄せたのが、我孫子の白樺派の始まりとなつた由。大正の始まりと共に時代の精神の発露の地となり、昭和の始まりと共に鉄道の普及により成熟した文化都市へと成長した我孫子の発展の経緯が偲ばれた。

三、土地のパトス  
今日のコースを歩いてみて、大正期以降の我孫子と似たような道を辿つた。藤沢市鶴沼を思い起し

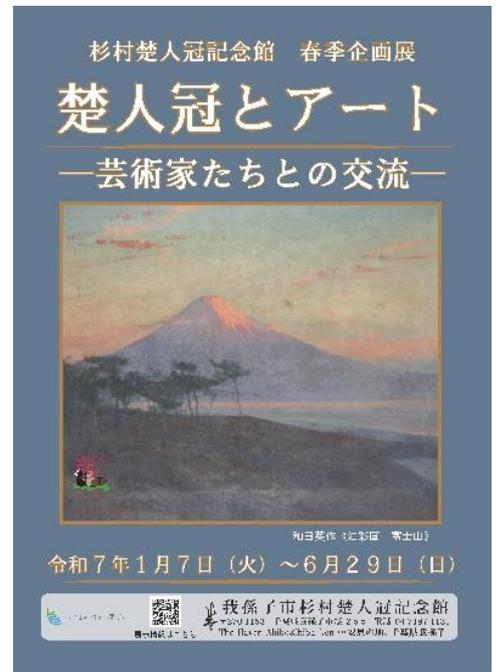
した。そして鶴沼と比べて、土地の起伏に富み、南面の手賀沼の水面を俯瞰できる絶好の景勝地のたずまいと我孫子の魅力を、引き続き市民の方々に知らせていただきたいと思います。

「我孫子クリオの会」『地域社会史』第二号を刊行

当会の前会長で故美崎大洋氏が代表を務める「我孫子クリオの会」が、会を閉じることを契機に『地域社会史研究』第二号(完結)を刊行しました。内容は、機関誌「クリオ」とその時々の方々の会員の投稿です。

冊子は、①と②の二冊で構成され(左の写真左と中)、厚さ三・五cmの箱入り(右)です。





### 杉村楚人冠記念館 春季企画展

のお知らせ

「楚人冠とアート」 — 芸術家たちとの交流 —

東京朝日新聞社のジャーナリスト・杉村楚人冠の邸宅で楚人冠と同時期に活躍した芸術家たちとの交流を紹介しています。

期間 1月7日(火)～6月29日(日) 月曜休館

開館時間 午前9時～午後4時30分

所在地 我孫子市緑二五五(駅から約9分)

入館料 一般三〇〇円、高校・大学生二〇〇円、中学生以下無料、障がい者免除・団体割引等あります。

詳しくは、同館へ 電話04-7187-1131

### 第五十回短歌の会

十一月二十六日は休会しました

世界一有名な犬デコピンの

ちょっと困ったパレードの顔

「無沙汰をしましたと父母の墓参り

「元気だったの」と母の声する

旧跡を訪ね歩けば久々に

心満ちるも足は離反す

あれこれと出来ない事の多くなり

不甲斐なき身となげく日々なり

納見 美恵子

ただ一輪この寒空にけなげにも

柵朝顔に褒めてあげたい

彼岸花彼岸過ぎてても咲かないで

やっとなめたが二輪のみかな

巨木には精霊宿る伝えあり

遣ってみたと思う我なり

盆栽の水をやりつつ思われる

在りし日の夫の手入れのさまを

前原 安世

涙して終の握手の温かさ

人に別れは唐突に来る

もうこの世に在らずと思へば

耳底を離れる声はわれのみの物

肩先に淡きかけ添う今日ひと日

君よ停に黄泉よりや来し

伊奈野 道子

【予め投稿頂いていた作品を掲載しました】

### 当会の行事予定

□ 「放談くわん」

日時 2月28日(金) 14:00～16:00

会場 あびこ市民プラザ 会議室1

〔先着三十五人〕

講師 吉澤淳一氏(前我孫子の景観を育てる会会長) 演題 「白樺派のまらの見える化」に向けて

ちば文化資産「白樺派と文人たちの郷」への提案

参加費 会員無料、非会員三〇〇円

問合せ 〇九〇―五三三二―二八五五(村上まで)

(10ページ「あびこ」を参照)

□ プロジェクト「短歌の会」

第五一回短歌の会 日時 一月二二日(火) 13:30～

第五二回短歌の会 日時 三月二五日(火) 13:30～

場所 けやきプラザ10階小会議室

□ プロジェクト「巨木、銘木をめぐる会」

2月は、中止します

連絡先 佐々木 〇九〇―二五四九―〇四二五

### 編集後記

▼二〇二四年は、元旦に能登地方が震度七の大地震に見舞われ、続く日航機と震災救援の海上自衛隊機の衝突が発生し、正月から肝を冷やした。道路の寸断で被災地に入れずに、一年が経った今でも復旧は進んでない。▼未だに不自由な生活を送っている方々を思うと、もどかしさが募り、もっと早く何とかならないのか、日本はどこが先進国なのかと忸怩たる思いがして来る。▼政治資金問題で端を発した『政治と金』の問題は、総選挙で与党自民党が大敗した。国会では、強引な採決が出来なくなり、『ごはん論法』や『丁寧』に耳を傾ける」といった誤魔化し答弁が減り、少しは正常な討論になった。▼我孫子の文化を守る会も昨年は多くの先達が鬼籍に入り激変の年であった。これ迄の歩みを止めずに、より地域社会と密接な連携を深める文化創造の歩みを進めたい。(あしたか)